

# 2018年度 第2四半期 決算説明会

2018年11月13日

100年をつくる会社



I

**2018年度 上期 決算実績**

01

II

**2018年度 通期 業績予想**

13



# 2018年度 上期 決算実績

1. 事業環境等の振り返り
2. 業績ハイライト
3. 事業別の概況

# 1.事業環境等の振り返り

## 国内建設市場の動向

- 建設投資は高水準の民間設備投資を中心に底堅く推移
- 建設コストは一部に上昇が見られるものの、安定的に推移

## 当社の施策推進状況

- 施工合理化・生産性向上の取り組みを継続して実施
- グループの強みを活かせる事業領域の拡充と経営基盤の整備を計画的に推進

## 2.業績ハイライト

高水準の前年同期から減益、通期予想に対しては高い進捗

単位:億円	17上 実績	18上 実績	前年 同期比	進捗率	期首 通期予想
売上高	8,227	8,977	+750	44.9%	20,000
営業利益	768	606	△161	56.1%	1,080
経常利益	843	721	△122	61.6%	1,170
※ <sub>1</sub> 四半期純利益	643	545	△98	66.5%	820
建設事業受注高	7,593	7,520	△72	43.2%	17,400
有利子負債残高	※ <sub>2</sub> 3,448	2,758	※ <sub>3</sub> △689	—	3,400

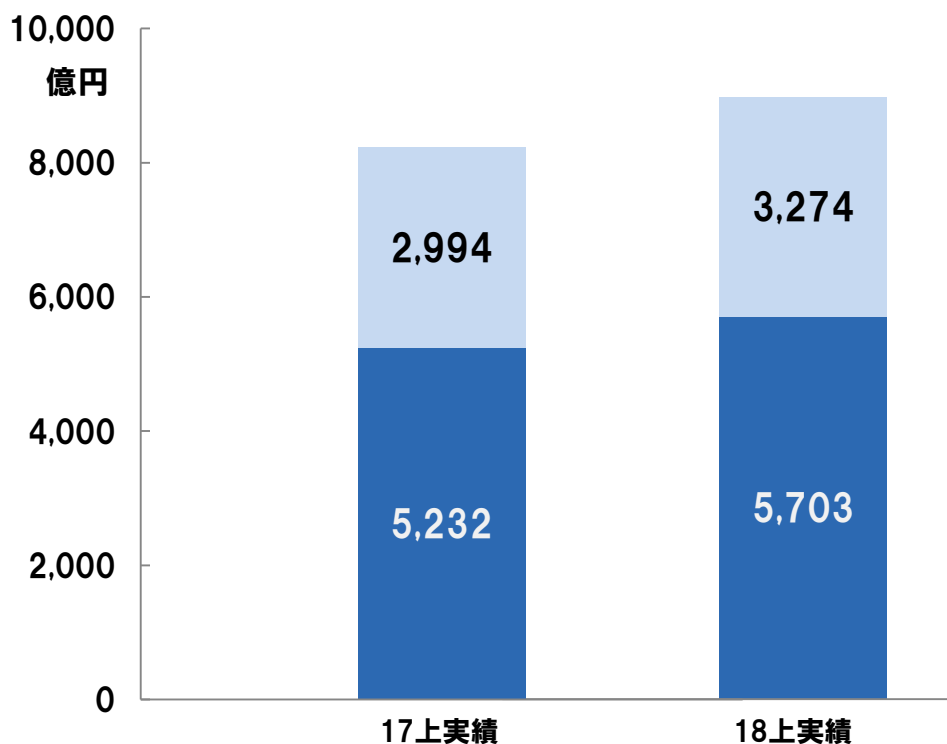
※<sub>1</sub> 親会社株主に帰属する四半期純利益

※<sub>2</sub> 17年度末実績

※<sub>3</sub> 前年度末比

# 2.売上高

単位:億円	17上実績	18上実績	前年同期比
売上高	8,227	8,977	+750



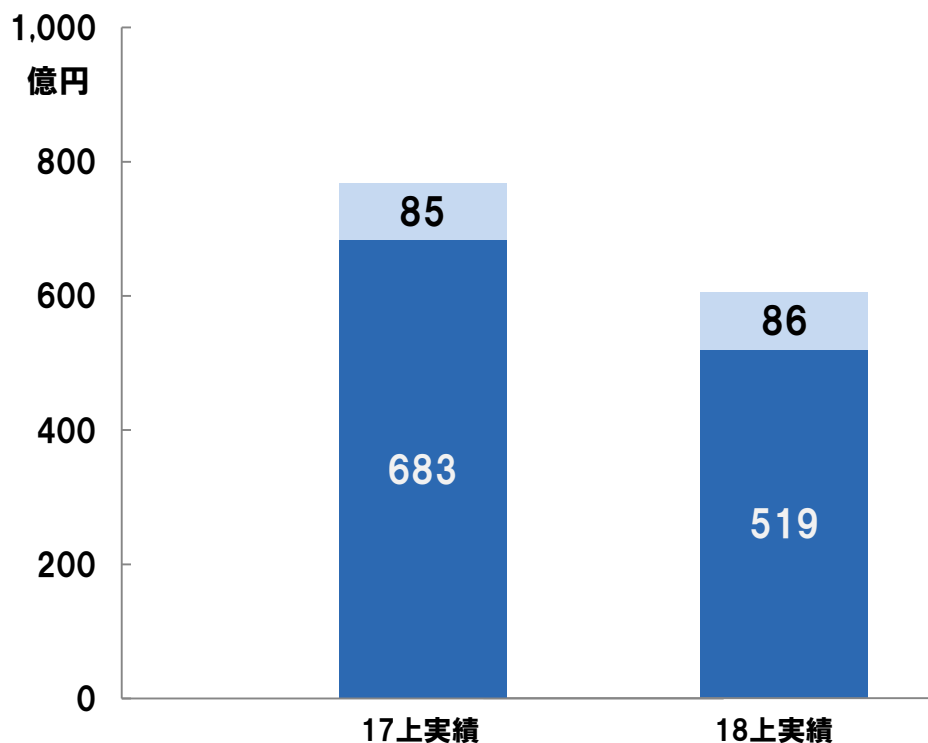
## 増減要因 (前年同期比)

- 単体建築 +624
- 海外 +249

■ 単体 ■ 子会社等

## 2. 営業利益

単位: 億円	17上 実績	18上 実績	前年同期比
営業利益	768	606	△161



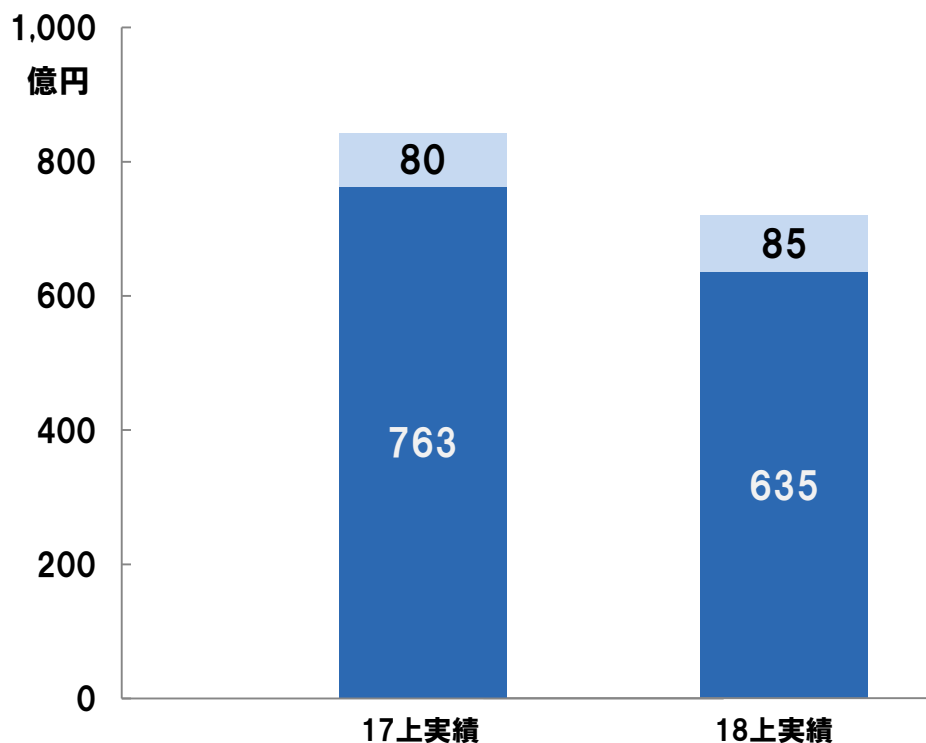
### 増減要因 (前年同期比)

- 売上総利益 (建設事業)  $\Delta 131$
- 売上総利益 (開発事業)  $+12$
- 販管費増加  $\Delta 42$

■ 单体 ■ 子会社等

## 2. 経常利益

単位: 億円	17上 実績	18上 実績	前年同期比
経常利益	843	721	△122



### 増減要因 (前年同期比)

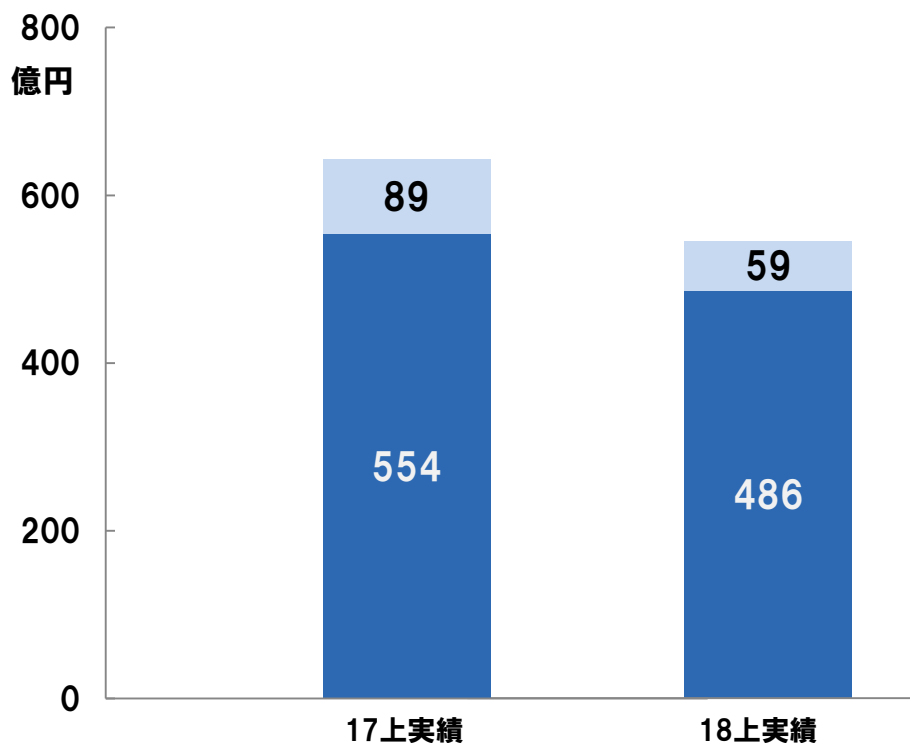
➤ 営業利益	△161
➤ 営業外損益	+39
貸倒引当金戻入	+22
開発事業出資損益	+16

■ 単体    ■ 子会社等



## 2.親会社株主に帰属する四半期純利益

単位:億円	17上実績	18上実績	前年同期比
四半期純利益	643	545	△98



### 増減要因 (前年同期比)

- 経常利益  $\Delta 122$
- 特別損益  $\Delta 12$
- 法人税等  $+38$
- 非支配株主持分  $\Delta 2$

■ 单体 ■ 子会社等

# 3.事業別の概況 ①土木事業(単体)

## 受注高

➤ 大型案件の受注が減少し、前年同期から減少

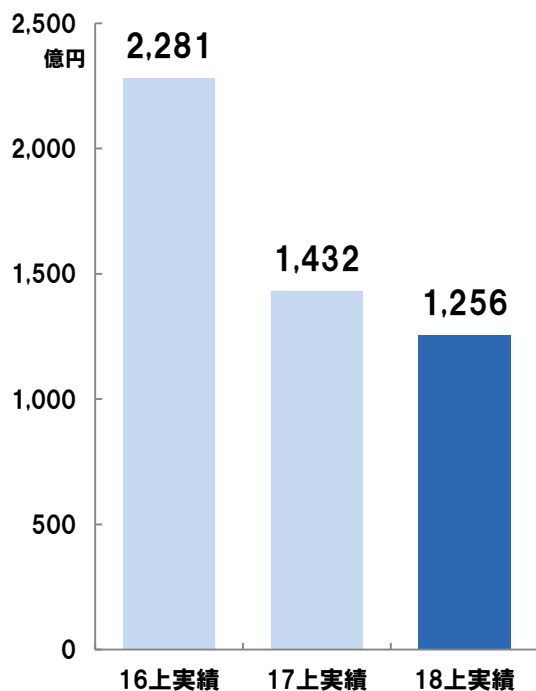
## 完成工事高

➤ 海外の売上高減少を主因に、前年同期から減少

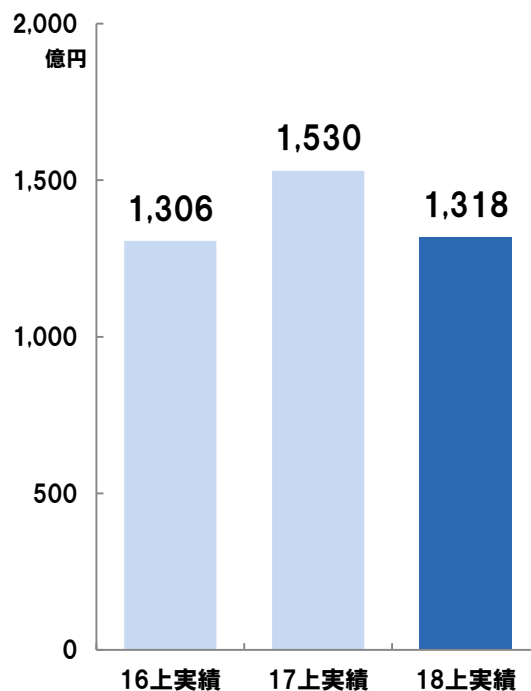
## 総利益

➤ 通期予想を上回る利益率を確保

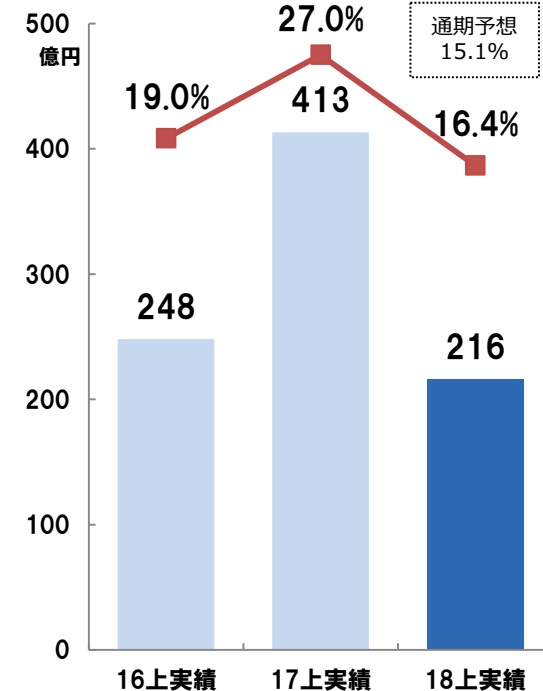
### ■受注高



### ■完成工事高



### ■完成工事総利益



# 3.事業別の概況 ②建築事業(単体)

受注高

➤ 大型案件の受注が減少

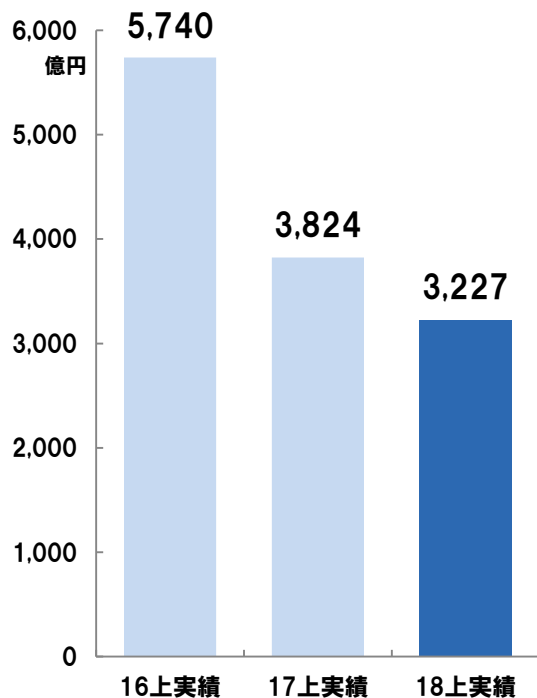
完成工事高

➤ 大型手持工事の施工が進捗し増加

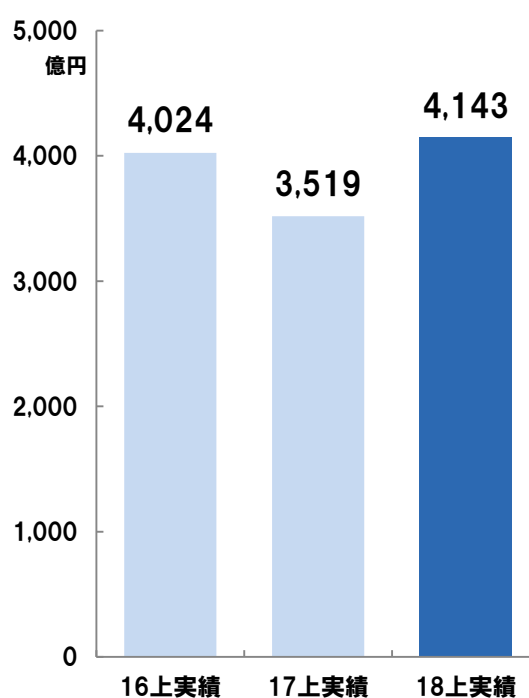
総利益

➤ 生産性向上・原価低減への取り組みの成果に加え  
建設コストの上昇が限定的であったことも寄与し一定の利益率を確保

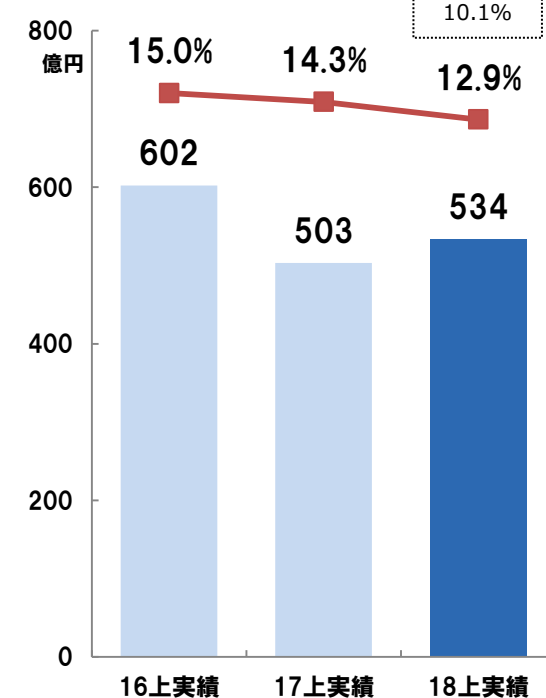
■ 受注高



■ 完成工事高



■ 完成工事総利益

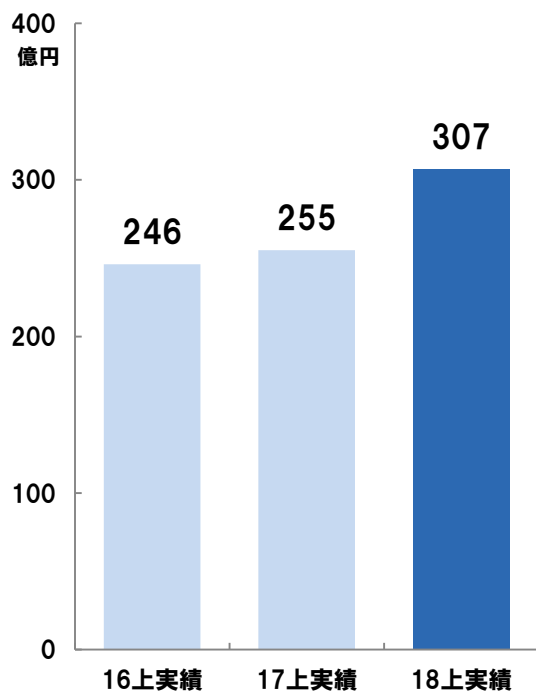


# 3.事業別の概況 ③開発事業等(単体)

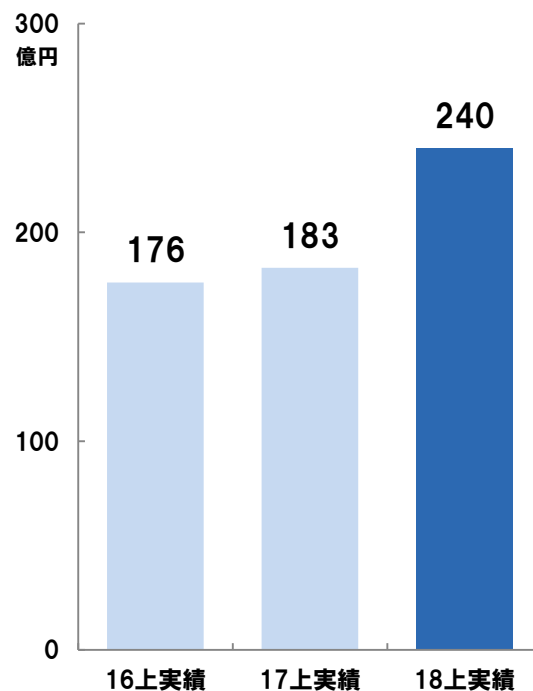


➤ 鹿島プライベートリート投資法人への保有資産売却により増加

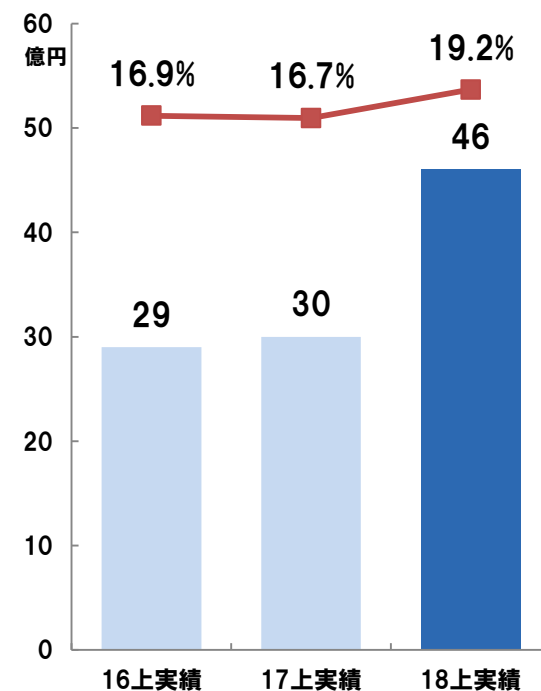
■ 受注高



■ 売上高



■ 売上総利益



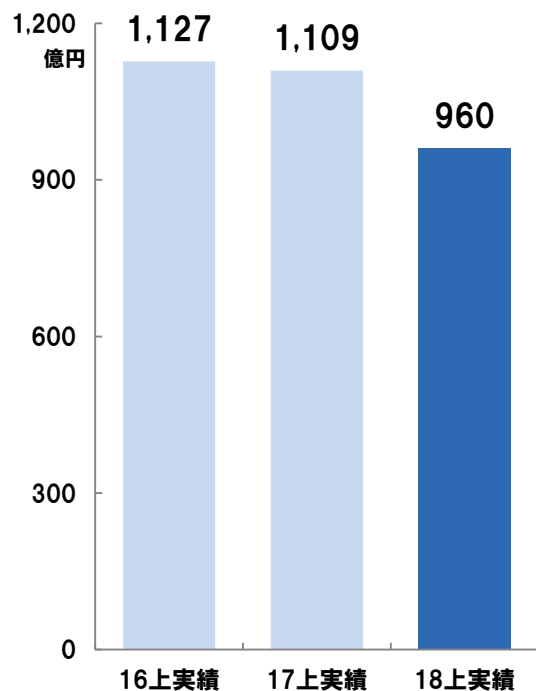
# 3.事業別の概況 ④国内関係会社

**受注高** ▶ 大型案件を受注した前年同期から減少

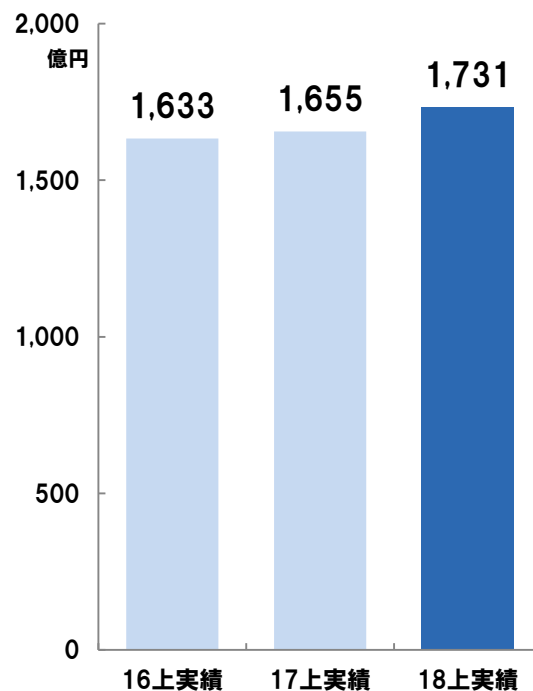
**売上高** ▶ 首都圏における資機材販売等を主因に増加

**経常利益** ▶ 前年同期と同水準

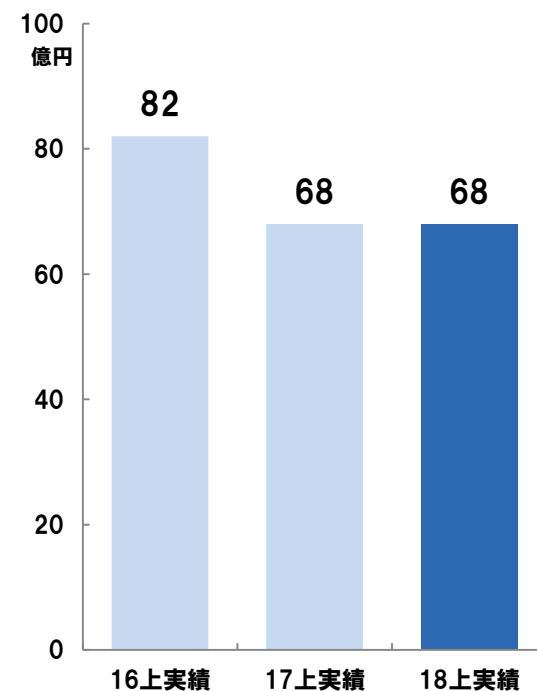
■ 建設事業受注高



■ 売上高



■ 経常利益



### 3.事業別の概況 ⑤海外関係会社

受注高

➤ 大型案件の受注とM&Aの効果により増加

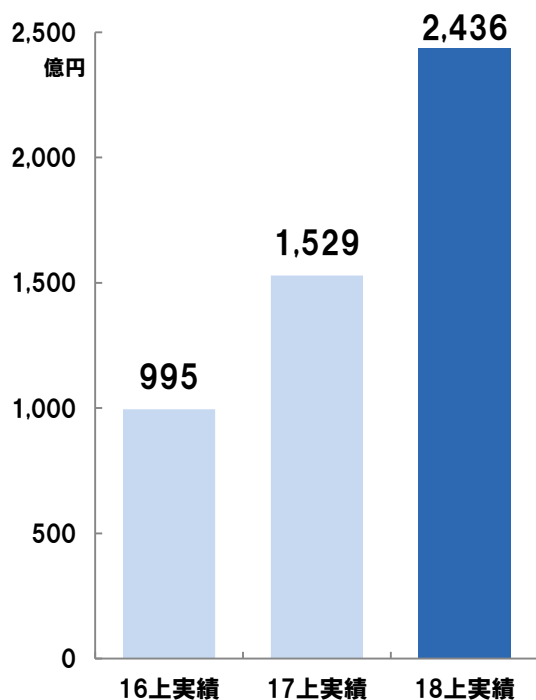
売上高

➤ M&Aの効果を主因に増加

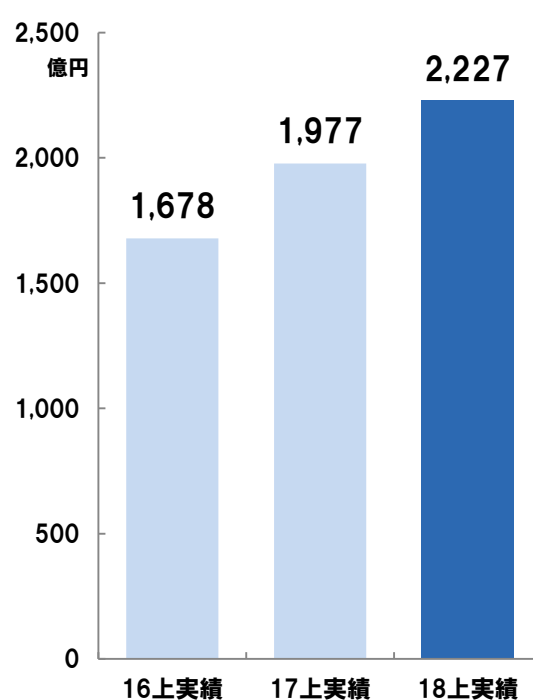
経常利益

➤ 売上高増加に利益率向上と物件売却(営業外含む)が加わり大幅な増益

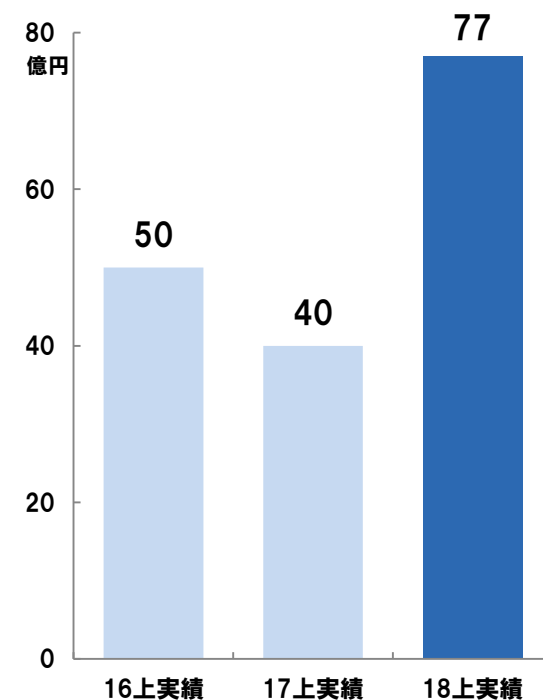
■ 建設事業受注高



■ 売上高



■ 経常利益





# 2018年度 通期 業績予想

1. 事業環境等の見通し
2. 業績ハイライト
3. 事業別の概況
4. 配当金

# 1.事業環境等の見通し

## 国内建設市場の動向

- 民間設備投資を中心に、引き続き堅調に推移する見通し
- 首都圏を中心に大型工事の施工が本格化し、建設コストの更なる上昇の懸念

## 今後の事業戦略

- 次世代建設生産システムの構築に向けた施策の強化
- 次世代の担い手確保を見据えた「鹿島働き方改革」の推進
- 中期経営計画で策定した投資計画の着実な実行



## 2.業績ハイライト

### 上期実績、事業状況等を踏まえて業績予想を修正

単位：億円	17通 実績	18通 期首予想	18通 最新予想	前年度比	期首予想 比
売上高	18,306	20,000	19,600	+1,293	△400
営業利益	1,583	1,080	1,200	△383	+120
経常利益	1,797	1,170	1,340	△457	+170
※1 当期純利益	1,267	820	970	△297	+150
建設事業受注高	16,859	17,400	17,800	+940	+400
有利子負債残高	3,448	3400	3,400	△48	±0

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

# 3.事業別の概況 ①土木事業(単体)

受注高

➤ 期首予想を据え置く

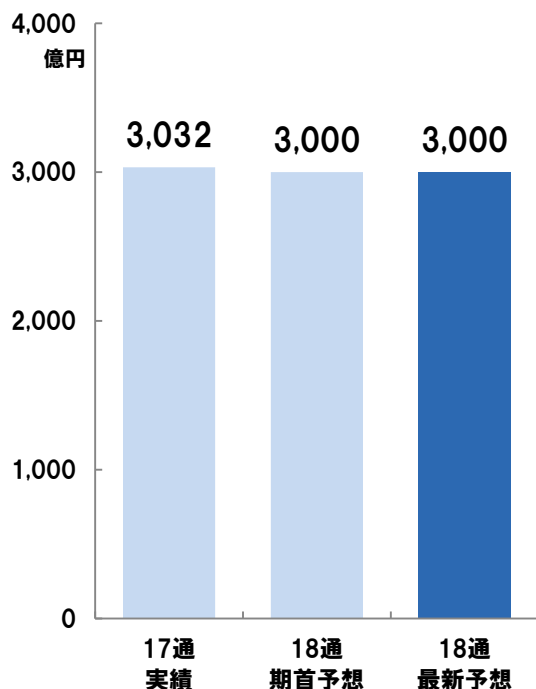
完成工事高

➤ 期首予想と概ね同程度を見込む

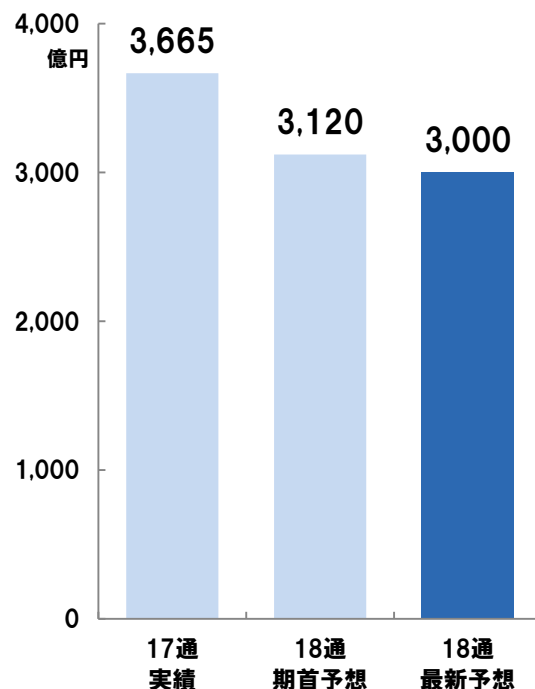
総利益

➤ 上期実績等を踏まえて期首予想を据え置く

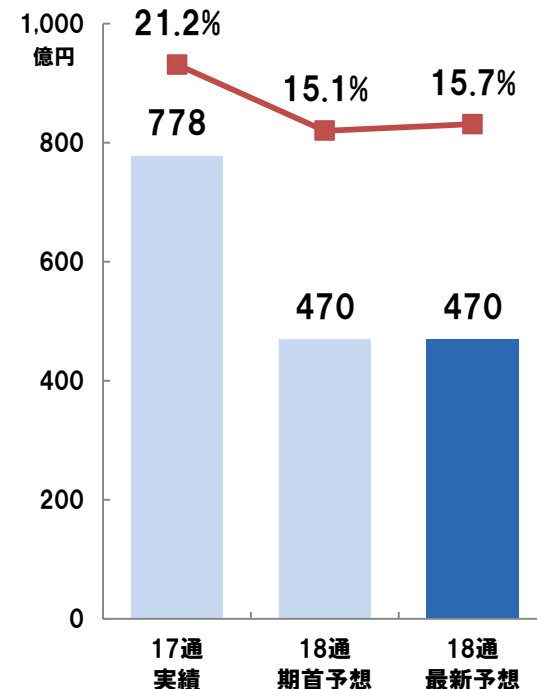
■ 受注高



■ 完成工事高



■ 完成工事総利益



# 3.事業別の概況 ②建築事業(単体)

受注高

➤ 営業財産の状況を考慮し上方修正

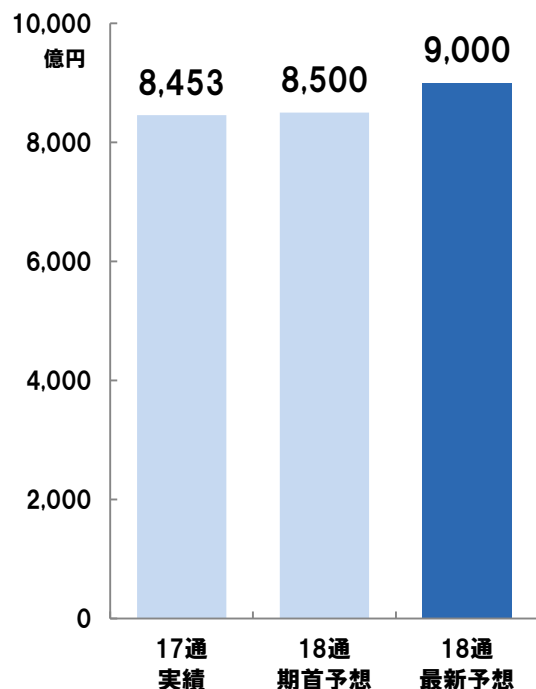
完成工事高

➤ 期首予想を据え置く

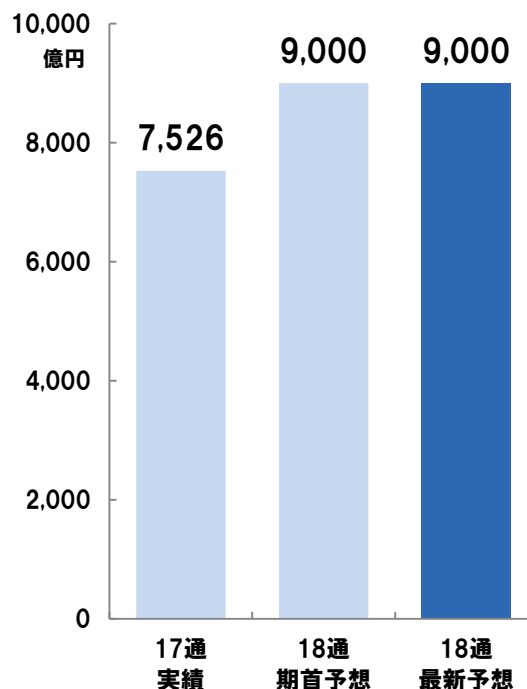
総利益

➤ 上期実績と手持工事等の状況を踏まえて上方修正  
➤ 前年度と同水準の利益確保を見込む

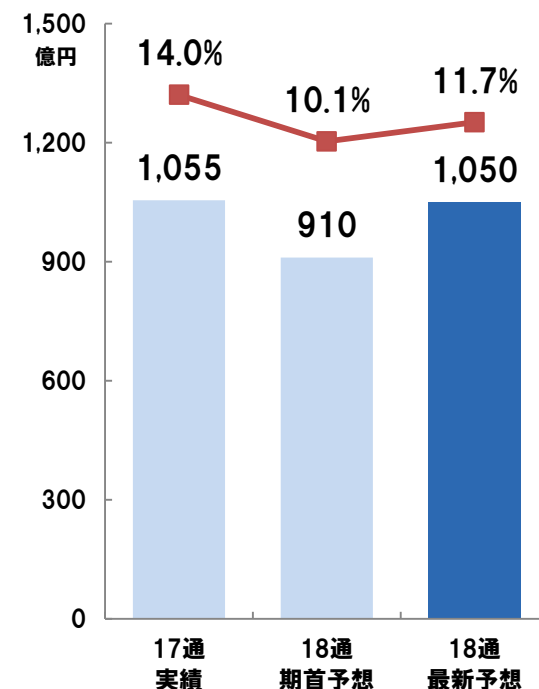
■ 受注高



■ 完成工事高



■ 完成工事総利益



# 3.事業別の概況 ③開発事業等(単体)

受注高

➤ 期首予想を据え置く

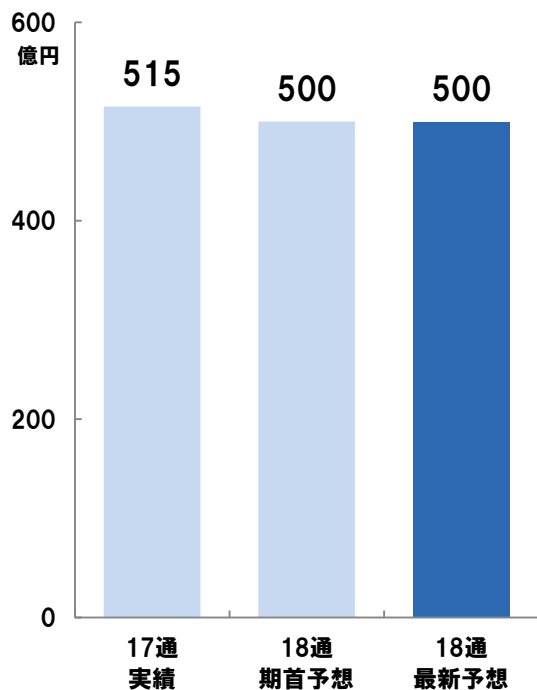
売上高

➤ 上期実績等を踏まえ上方修正

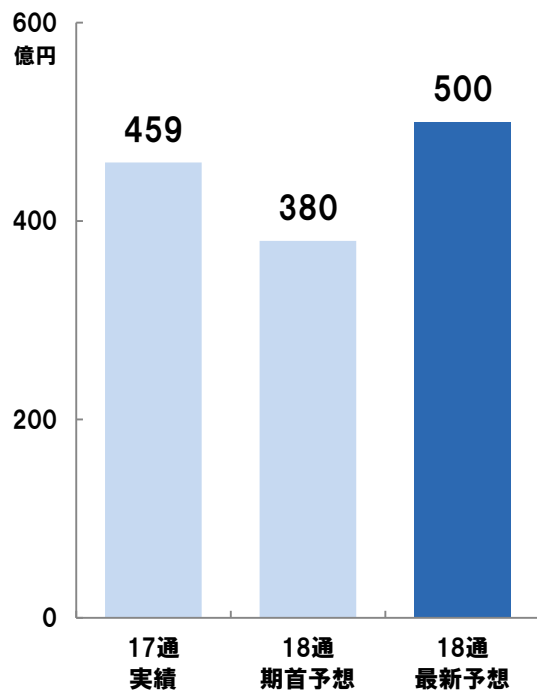
総利益

➤ 期首予想を据え置く

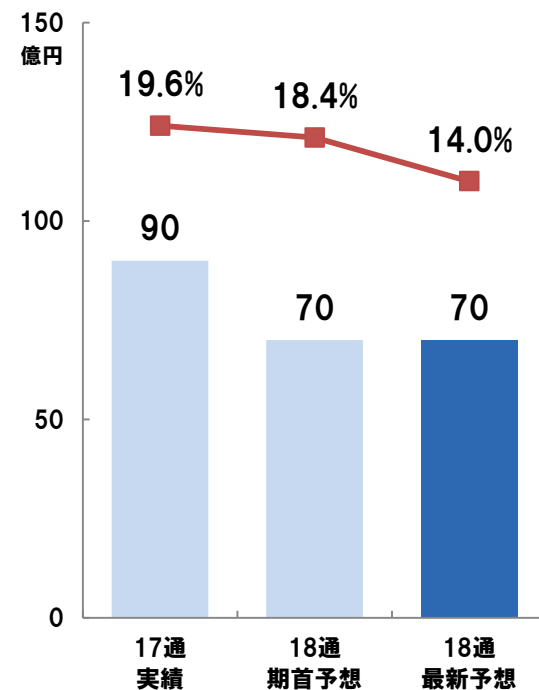
■ 受注高



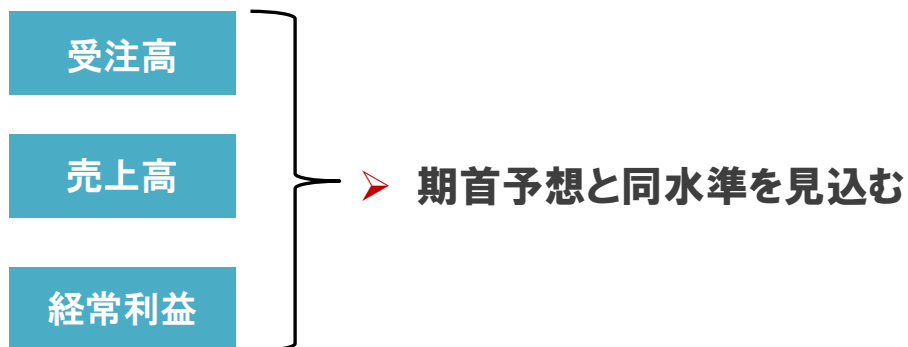
■ 売上高



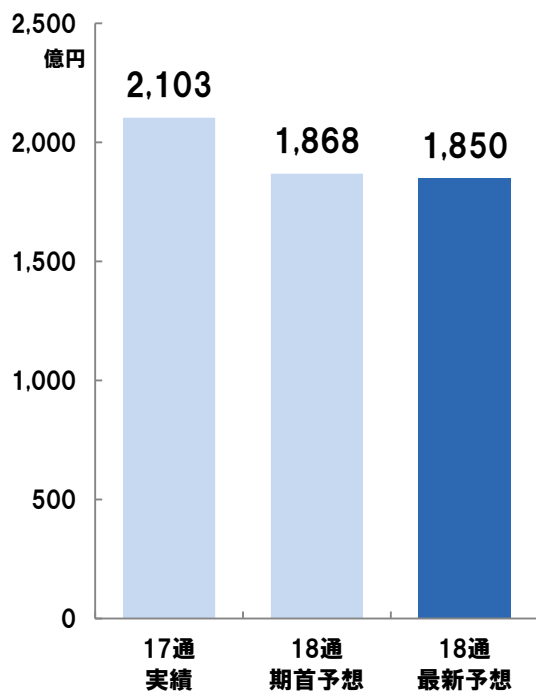
■ 売上総利益



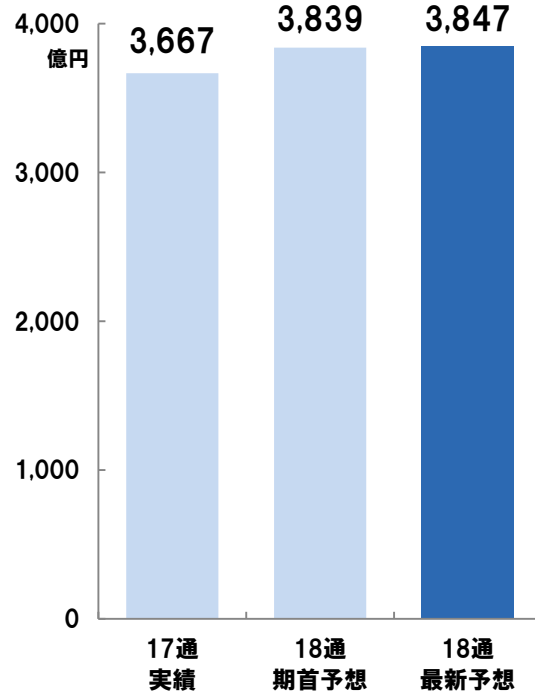
# 3.事業別の概況 ④国内関係会社



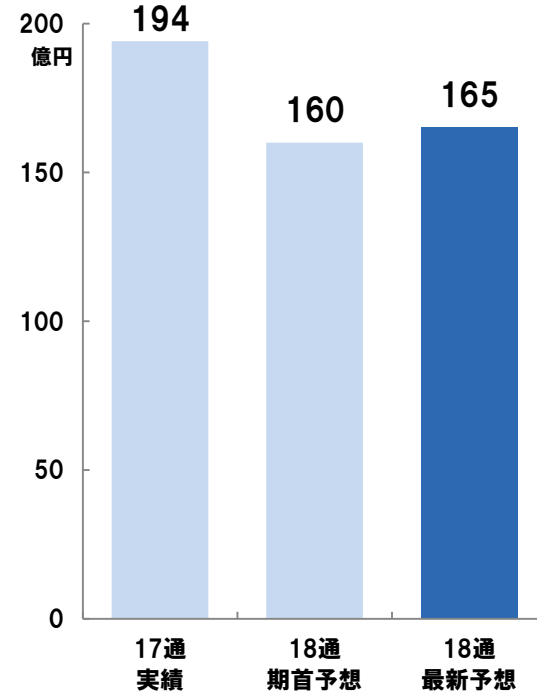
■建設事業受注高



■売上高



■経常利益



# 3.事業別の概況 ⑤海外関係会社

受注高

➤ 期首予想と同水準を見込む

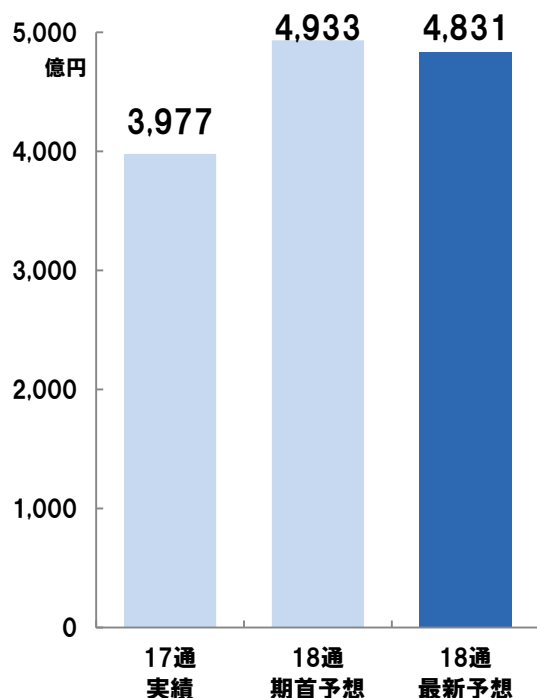
売上高

➤ 営業中案件の計画遅延や為替の影響により下方修正

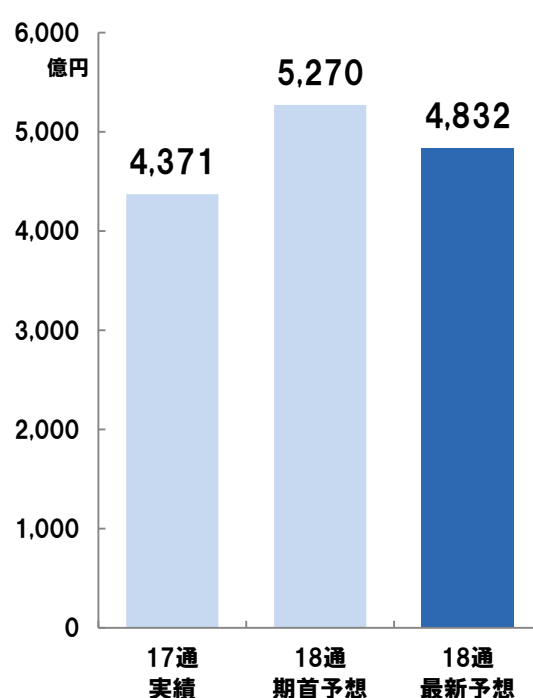
経常利益

➤ 期首予想と概ね同水準を見込む

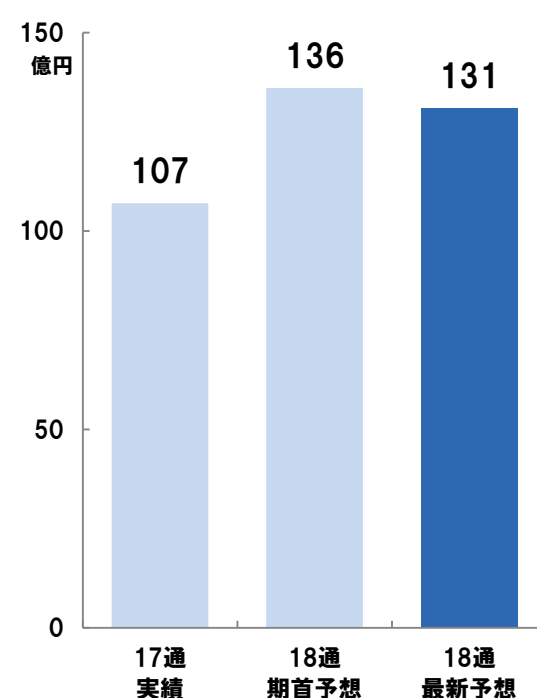
■ 建設事業受注高



■ 売上高



■ 経常利益



## 4.配当金

### 配当金は期首予想を据え置く

	16通 実績	17通 実績	18通 期首予想	18通 最新予想
1株当たり 年間配当金	20.00円	24.00円	24.00円	24.00円
1株当たり 当期純利益	101.01円	122.14円	79.00円	93.46円
配当性向	19.8%	19.6%	30.4%	25.7%

当社は2018年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っておりますが、比較のため、2018年度期末の各数値については、株式併合の影響を考慮しない値を記載しております。

#### <株主還元方針>

当社における利益配分については、連結自己資本を確保しつつ、配当性向20～30%の範囲を目安に、株主に対し安定的な配当に努めることを基本方針としている。内部留保については、財務の健全性を維持しつつ、持続可能な成長の実現に向けた投資等に活用していく。

100年をつくる会社



お問合せ先

鹿島建設株式会社 経営企画部  
コーポレート・コミュニケーショングループ  
E-Mail : [ir@ml.kajima.com](mailto:ir@ml.kajima.com)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、実際の業績は、様々な要素により記載の数値とは異なる結果となる可能性があります。